

【第3回大会報告】



第3回大会報告

◆第3回大会開催報告

井野秀一

幹事（北海道大学）

本年の日本バーチャルリアリティ学会大会は、天候に恵まれるなか、8月19日（水）～21日（金）の3日間の日程で北海道大学学術交流会館にて開催されました。開催地が東京や大阪から遠く離れた札幌であるにもかかわらず、大会の参加人数は300名を越え、大変賑やかな大会となりました（懇親会は実行委員らの予想をはるかに凌ぐ185名）。大会期間中は、バーチャルリアリティに関する熱心なディスカッションが、各自の専門分野や立場の違いを越えて、あちらこちらで繰り広げられていました。また、各種VRツールやVR研究に欠かせない計測器などを一堂に集めた企業出展ブースや実演展示コーナーも盛況でした。これら第3回大会の印象をできるだけ新鮮なうちにNewsletterに書き留め、第4回大会へのバトンにしたいと考え、以下のような本大会報告集を企画・編集いたしました。今後の大会運営への一助になれば幸いです。最後に本大会を支えて下さった多くの方々に厚く感謝いたします。

◆会長の踊り

伊福部 達

大会長（北海道大学）

学会中日を終えて懇親会場に入った途端、溢れ出るような熱気と貪り食う集団に出くわして、一瞬とまどったものの大会に皆が満足しているようだという安堵の気持ちが沸いてきた。今年の4月から本格的な作業が始まり、まず、ポスター作りと特別講演者の決定、次に、送られてきた原稿のチェックと論文集の印刷、技術展示のための設営と会場作り、と普通の学会の準備と同じようである

が、それまでに至るには私共の研究室の職員を中心とする実行委員の涙ぐましいほどの努力があった。118件の発表、22社による技術展示、11件の実演作品発表、シンポジウム、特別講演と盛りだくさんの企画があり、参加者は300人を越えていた。特別講演のゴジラ特撮の裏話では、あらかじめ用意しておいた台本から話がどんどん変わっていき、司会の私アドリブになってしまったが、後でそれがかえって良かったと聞きホッとした。この大会を通じてVR学会も順調に発展してきていることを肌で感じる事ができた。懇親会で館会長が「アイヌの踊り」に参加した姿がそれを物語っていた。

◆VRSJAC'98 実行委員からの報告

(1) シンポジウム報告

田中 敏明

広報担当（札幌医科大学）

シンポジウム「VRに望むこと - 福祉と教育の立場から -」についてご報告いたします。

はじめに司会の井野先生（北海道大学電子科学研究所）より、本大会では、社会は「VR」に対して、どんな期待を寄せているのかを考えるシンポジウムとして、特に、「福祉と教育」にスポットを当て構成した旨の説明がありました。

まず、福祉とリハビリの分野から、「VRへ望むこと - リハビリテーションへの応用 -」と題して、筆者、田中（札幌医科大学保健医療学部）が講演し、リハビリテーションのなかでも、増加の著しい高齢者や高次脳機能障害者のためのリハビリやそのバランストレーニングに対する「VR技術」の応用を、小著の研究例を交えつつ、具体的ななかたちで提言しました。